



香曾我部義則先生の今月のカルテ ④6

慢性痛とペインクリニック

■プロフィール こうそがべ・よしのり 昭和54年に岡山大学医学部卒業後、同大学麻酔科・蘇生科講師、岡山労災病院麻酔科第一部長に。平成16年から現職。日本麻酔学会専門医。日本ペインクリニック学会認定医。現在日本麻酔学会、日本ペインクリニック学会、日本慢性疼痛学会、国際疼痛学会などに所属

梶木病院麻酔科・ペインクリニック科の香曾我部義則先生が、痛みの治療について分かりやすく説明してくれるコラム。今回は、前回説明した神経因性疼痛の治療でよく使われる塩酸リドカインについて話をしてくれます。

ナトリウムチャネルをブロックし痛みを制御
慢性疼痛の治療薬に不可欠な塩酸リドカイン

前号で慢性疼痛の主体である神経因性疼痛(神経障害性疼痛)の仕組みを判別するための薬理学的疼痛機序判別試験(ドックチャレンジテスト・DCT)について説明しました。

その中でもっとも使用頻度が多く、治療の有効性の高い薬剤である塩酸リドカイン(キシロカイン)について説明します。

塩酸リドカインは、さまざまな作用を持つ薬剤です。第一に、局所麻酔薬として使用されます。けがなど外傷で皮膚を縫う必要がある場合や、歯の神経処理や抜歯の際の強い痛みに対して痛み止め(注射を受けたこと)は多くの方が経験済みかと思えます。

この際使用するのが塩酸リドカインです。簡単な手術や処置に日常的に使用されています。第二に、心臓の不整脈の治療に必須の薬剤です。第三に、最近では慢性疼痛の治療薬に不可欠な薬となりました。

塩酸リドカインは、主にナトリウムイオンチャネルを遮断することで効果を示します。イオンチャネルは細胞膜にあつて、神経細胞内外の濃度差を変えることで微弱な電位変化を起こす作用を持ちます。この微弱な電位変化を活動電位と呼び、活動電位によって神経細胞同士や神経細胞から筋肉や腺などへ組織情報を伝達されます。塩酸リドカインはこの伝達薬とも言えます。

例えば帯状疱疹(ほうしん)は人が小児期に感染し、後根神経節に隠れていた水痘(とうそう)・帯状疱疹ウイルスが再活性化して皮膚に発疹(ほっしん)を生じます。同時に皮膚に沿って日常生活や睡眠などにも障害を引き起こすような強い痛み(神経因性疼痛)を引き起こします。

できるだけ早期に坑ウイルス薬を投与し、ウイルスの増殖を抑制することがまず大切ですが、強い痛みに対しては塩酸リドカインの点滴注射が非常に効果を示します。さらに三環系抗うつ薬(アミトリプチリン、ノリトリプチリン)の併用で辛い痛みから解放することができます。

梶木病院(西花尻1231-1)

電話(209)333559

香曾我部義則先生

梶木病院(西花尻1231-1)

電話(209)333559